

戦争で家も家族も失った…

-戦後を生きぬいた戦災孤児たち-

日時：2016 (平成 28) 年 9 月 18 日 (日) 13:30~16:00

場所：ピースおおさか講堂

戦争で親をなくした子どもたちの中には、戦災孤児となり、行くあてもなく街をさまようこととなった方も多くありました。彼・彼女らは戦後の混乱と復興の歩みの中をどのように生きぬいたのでしょ

うか。体験者の話と映画「蜂の巣の子どもたち」から見える戦災孤児の姿を通して、戦争の悲惨さや平和の尊さについて考えます。

第一部 映画解説と体験講話

【解説】 片山忠昭氏 (国民学校と学童疎開を考える会)

【体験者】 荒木準一郎氏

<荒木氏プロフィール>

幼い頃から両親がおらず、祖母と二人で暮らしていたが、1945(昭和 20)年 3 月 13 日の大阪大空襲で家が焼け、終戦は集団疎開先で迎えた。しばらく児童養護施設で暮らしていたが、祖母とも死別し、10 歳で天涯孤独となり、浮浪生活をおくった。



荒木準一郎氏

第二部 映画「蜂の巣の子供たち」上映



画像提供：プラネット映画資料図書館

監督である清水宏が自ら映画プロダクションを作り、孤児たちと素人俳優たちを出演させ、私財を投じて制作したのが本作品。

(1948 年公開 86 分)

<あらすじ>

復員し、帰るべき家も肉親もない島村は、下関で 8 人の孤児たちと、引揚者の女性と知り合う。皆同じような立場で心に通い合うものがあ



●対象/どなたでも ●申込方法/お電話にて ●定員/250 名

●参加費/無料(ただし入館料が必要)

大人 250 円、高校生 150 円、中学生以下・65 歳以上・障がい者の方は無料。

* 申込をされた方の個人情報は、この事業の連絡のみに使用し、第三者に開示・提供することはありません。

●お問い合わせ/ピースおおさか

〒540-0002 大阪府中央区大阪城 2 番 1 号

TEL06-6947-7208 FAX06-6943-6080

<http://www.peace-osaka.or.jp/>

<主催> ピースおおさか(公益財団法人 大阪国際平和センター)

<協力> 国民学校と学童疎開を考える会